



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第8号〉

風の色



歌川広重 「東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図」

大判錦絵 天保4年(1833)頃 馬頭町広重美術館蔵

夕暮れというよりは、すでにあたりに闇がたちこめたま
さしく「誰そ彼れ」の時。そびえたつ並木の合間からは、
ぼつかりと月が白い顔をのそかせており、狩野川に沿って
伸びる沼津宿への道を旅人たちが急いでいます。

手前に描かれているのは、柄杓を手にした子ども連れの
女性と天狗の面を背負った男。女性の方は巡礼や伊勢参り
などと諸説ありますが、その装束から弟子を連れて地方を
巡業する女芸人、比丘尼ではないかとされます。その後ろ
を歩く男は讃岐国象頭山松尾寺の金比羅大権現へ参詣する
金比羅参り。なにより目につく背中の天狗面は寺へ奉納す
るためのものです。どちらも独特の旅姿に旅愁が溢れてい
ます。

さて、この作品の主要要素が3本の並木の間にほぼ全て
収められていることにお気づきでしょうか。特に画面中央
の2本の木の間には背景の鮮やかな青色の中に、月、月光
を受けて輝く土蔵の白壁、男の行衣、天狗面といった、白
と赤で構成された要素が絶妙に配置されており、鑑賞者の
視線を画面の中央に集めるとともに、天狗面という特徴あ
る造形を引き立てています。

最近の研究では、少なくともこの「東海道五拾三次之内」
を描く時点(1833年頃)では、広重は東海道を京まで
旅していなかったらうとされています。そしてそのこと
を知ると、なぜか落胆される方が多いようです。しかし、
むしろ我々は賞賛すべきではないでしょうか。実際に見た
ことのない風景を、見る人の旅情をかきたてるような魅力
溢れる作品に仕上げた広重の画才を、そしてその人氣が1
70年もの間、継続していることを。

*この作品は9月5日(日)まで開催の「町村合併50周年記念企
画展 江戸の旅 東海道五拾三次展」に出品されています。

錦絵の鋭敏な感性

「幕末・明治の浮世絵美人画展」

「幕末・明治の浮世絵美人画展」を鑑賞しました。その後、国際浮世絵学会常任理事の橋本健一郎氏のスライドを多用した、わかりやすい解説のお話を聴き、楽しいひとときを過ごすことができました。浮世絵美人画は、男性による女性の理想像で、敏感に大衆の好みに反応し、様式化された「美」が版画技術の向上と相まって、多く流布したそうです。

ふくよかで健康的な美人を描く師宣、夢見るような表情・細身の美人を描く春信、それらの絵師に影響さ



7月10日「幕末明治の美人画について」講演風景

れ、現実の遊女・町娘を理想化した美人を描く歌麿に至り、美人画は頂点を極めました。

幕末の豊国・国芳・英山・英泉などの作品を数多く取り上げ、女性の体温が伝わるような生活に密着した作品は、作者の個性を出す工夫が随所に表れていると話されました。

幕末の絵師たち、特に英泉の描く着崩れした衣装、目がつり上がり、

あこがれ細く猪首顔の女人の迫力は、何なのでしょう。封建制度が揺らぐ幕末、滅び行く時代へのレクイエム、それとも新時代への不安、逃避。版画技術を極めた作品が、生々しい構想をうち出せず、従来の様式で描いていることは、時代にとり残された姿なのでしょうか。時代に生きる絵師たちの鋭敏な感性を哀れにも感じました。

美しき人うつろや風涼し

養輪 君子(鳥山町)

オープンギャラリーで作品展



オープンギャラリー作品展に見入る来館者

馬頭町広重美術館は「より開かれた親しみやすい美術館」を目指して、郷土作家の作品をオープンギャラリーなどに展示しています。本年は、3月に馬頭町名誉町民・菊池俊男氏の油絵を、また、4月は、新町在住橋本誠氏の俳画作品を展示、多くの来館者の目を楽しませました。

郷土美術愛好者の作品発表の場として、作品展は引き続き実施して行く方針で、展示希望者は、美術館にお申し込みください。作品の展示・撤去、搬入・搬出は出品者が行うこと、展示期間は、企画展開催期間中約一カ月間等々が条件となります。今後の展示予定は、次のとおりです。

● 大金洋一 油彩画作品展

・前期 8月5日～20日

・後期 8月21日～9月5日

● 君島龍輝 国際版画展

9月9日～10月17日

● 石川綱洋「こころの藍」展

10月19日～11月14日

◆ 友の会会員特典を拡充 ◆

広重美術館友の会総会は5月26日、視聴覚研修室で開かれ、平成16年度事業計画、収支予算などを決定しました。

また、積立金については全額を美術館整備基金に寄付することになりました。

美術館友の会会員数は平成12年の個人会員546人、法人会員24法人をピークに減少の一途をたどっています。会員の

皆さんにより魅力的な友の会の活動をと考え、8月1日からミュージアムショップでの割引率を、左記のとおりに変更します。

〈変更前〉一般商品5%割引

〈変更後〉一般商品10%・書籍5%

(図録は対象外)

ぜひ、ご利用下さい。

友の会視察研修会

天童市 広重美術館へ

第6回を数える友の会視察研修会を9月5日(日)・6日(月)に実施します。広重は、天童藩士や藩医・田野文伸と交遊があったことから、江戸時代後期、天童藩の為に肉筆画を描きました。この一連の作品群は、「天童広重」として有名です。今回は、天童市の広重美術館を訪ねます。

県外から4割アンケート調査結果

来館者のアンケート調査によると平成15年度は、県外からの入館者が4割を超え、2回目(11・1%)、3回以上(13・3%)とリピーターが増加している傾向を示しています。

「どちらから…」の設問には県内(54・3%)は減少しており、町内(3・5%)はわずかながら増加しています。団体来館者をみても、13年度は関東及び近県の10都県からでしたが、15年度は北海道、関東甲信越と範囲が拡大15都道府県に美術館が認知されつつあることが示されています。

入館者数4万4470人余の内、回答者は1598人で入館者の3・6%にあたります。年代別にみると

五十歳代(22・7%)が最も多く、六十代(20・4%)、十代(16・0%)の順になっています。

30万人達成はいつ

8月1日現在の開館以来の入館者数は28万4111人です。30万人達成日を予想してください。参考までに、「木曾海道六拾九次展」は5万3065人、「近代版画に見る広重の残照展」は4268人、「幕末・明治の浮世絵美人画展」は、3023人でした。

同封の用紙に予想日、住所、氏名、会員番号、電話番号を記入して郵送、または美術館受付に提出ください。会員のための応募とし、当たった方には記念品を差し上げます。

池田会長に瑞宝双光章

池田堅昭友の会会長は、春の叙勲で瑞宝双光章を受賞されました。おめでとうございます。



美術館長に藤田和夫氏

4月1日付で、美術館館長に藤田和夫教育長が就任いたしました。よろしく願いたします。



浮世絵入門シリーズ「浮世絵ってなんだ？」

「浮世絵版画の制作②」

さて1回目に引き続き版画の制作方法―版の作り方を説明しましょう。ここに掲載したのは複製ですが「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」の版木(主板と色板)。主板は絵師が描いた版下絵を、板(山桜が最も適しているとされる)に裏返しに貼り込んだ上から線を残すように彫ったもので、これが作品の輪郭線になります。(本物の「庄野」は裏表紙に掲載されていますので見比べてください。)そして主板を何枚か紙に摺ったものへ、絵師が色をつけた部分だけを朱色で塗りつぶしていきます。

これを別の板に裏返しに貼って塗りつぶし部分だけを彫り残せば色板が一枚できるといわけです。同様に必要な色の数だけ色板をつくります。さてこうして出来た主板と色板を一枚の紙に摺り重ねて作品ができあがるわけですが、そのとき輪郭線のなかに色がきちんと入らねばなりません。その工夫が「見当」です。カギ型と棒状の目印で、ここに紙の角をあてて摺ります。別々の板でも同じ場所に見当を作ることによって紙の位置が一定になります。これが見当がずれずというわけなのです。

(学芸員 津田 卓子)

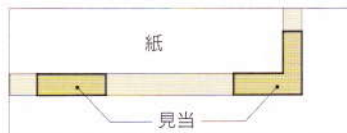
「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」
主板版木(複製)



「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」
色板版木(複製) ※坂の緑の色版。
上下反転すると黄色の色版になります。



版木下部拡大図



今後の展覧会予定

町村合併50周年記念企画展

「江戸の旅 東海道五拾三次展」

●会期 平成16年8月5日(木)～9月5日(日)

このたび馬頭町広重美術館のコレクションに、歌川広重の出世作であり、代表作の「東海道五拾三次之内」(俗に保永堂版東海道)が新たに加まりました！

本展覧会では、馬頭町の合併50周年を記念して、「東海道五拾三次之内」(全55枚揃)の日本橋から京までを一挙に公開いたします。また、あわせて広重の他の東海道作品である美人東海道や隸書東海道、墨絵東海道も一部展示しています。シリーズ毎の魅力をお楽しみ下さい。



歌川広重「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」(馬頭町広重美術館蔵)

町村合併50周年記念企画展 江戸の旅 東海道五拾三次展

8月5日(木)～9月5日(日)

ミュージアムトーク＝8月7日・21日・28日(全て土曜日)

記念講演会＝8月14日(土)「広重の東海道五拾三次について」

当館学芸員 市川信也

町村合併50周年記念 開館4周年記念 特別展 川崎・砂子の里資料館所蔵 浮世絵名品展

前期＝9月10日(金)～10月11日(月・祝) 後期＝10月15日(金)～11月14日(日)

ミュージアムトーク＝前期 9月11日・25日・10月2日(全て土曜日)

後期 10月16日・30日・11月6日(全て土曜日)

記念講演会＝

9月18日(土)「川崎・砂子の里資料館所蔵の浮世絵コレクションについて」

川崎・砂子の里資料館長 斎藤文夫氏

11月3日(水・祝)「川崎・砂子の里資料館所蔵の浮世絵の見所について」

国際浮世絵学会常任理事 新藤 茂氏

■特別展観覧料＝大人 800円(720円)／高・大学生 500円(450円)

小・中学生 150円(135円) ()内は20名以上の団体料金

企画展 青木コレクション名品展

11月19日(金)～12月23日(木・祝)

ミュージアムトーク＝11月20日・12月4日・11日(全て土曜日)

企画展 広重・ふたつの富士三十六景展

平成17年1月5日(水)～2月6日(日)

ミュージアムトーク＝1月8日・22日・29日(全て土曜日)

企画展 浮世絵・合筆の時代展

2月10日(木)～3月13日(日)

ミュージアムトーク＝2月12日・26日・3月5日(全て土曜日)

企画展 光と影の浮世絵師 小林清親展

3月17日(木)～4月17日(日)

ミュージアムトーク＝3月19日・4月2日・9日(全て土曜日)

●催しはいずれも午後1時30分より。先着順、聴講無料。但し、ミュージアムトークは観覧料が必要。

町村合併50周年記念・開館4周年記念特別展

「川崎・砂子の里資料館所蔵 浮世絵名品展」

●会期

前期／9月10日(金)～10月11日(月・祝) 後期／10月15日(金)～11月14日(日)

神奈川県川崎市の「川崎・砂子の里資料館」では、同市在住の斎藤文夫氏により収集された浮世絵を公開しています。名品や稀品が多く含まれたコレクションは、我が国有数の充実した内容を誇っています。

本展覧会では、その中から、江戸初期から大正期までの浮世絵の歴史を語るにふさわしい名品の数々―鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、三代歌川豊国、歌川広重―が出品されます。(特別展料金)

企画展

「青木コレクション名品展」

●会期

11月19日(金)～12月23日(木)

青木コレクション名品展を今年度も開催。青木藤作氏が収集し、当館が寄贈を受けたコレクションの名品をご紹介します。とともに、普段展示されないようなちよつと珍しい作品も公開いたします。

企画展

「広重・ふたつの富士三十六景展」

●会期

平成17年1月5日(水)～2月6日(日)

広重56歳頃に描いた「不二三十六景」と、死後に出版された「富士三十六景」、広重が9年の歳月を隔て描いた2種類の富士山の揃物を比較展示。各図に見られる広重の工夫をお楽しみ下さい。

企画展

「浮世絵・合筆の時代」

●会期

2月10日(木)～3月13日(日)

浮世絵のなかには、1シリーズあるいは1枚の絵を複数の絵師が一緒に手掛けた、合作・合筆と呼ぶべき作品が存在します。本来ライバルであるはずの絵師達による合作・合筆作品は、制作側からすれば多くの購入層を獲得できる、購入者からすれば一度に何人もの絵師の絵を楽しめる実に魅力的な商品であったはず。本展覧会では、広重の活躍した幕末期を中心に、合作・合筆による浮世絵作品の様相を紹介いたします。

企画展

「光と影の浮世絵師 小林清親展」

●会期 3月17日(木)～4月17日(日)

小林清親(1847～1915)は、明治期の東京風景を太陽光線の微妙なうつりゆきや、提灯のかすかなゆらめき、あたたかなガス燈の光などに注目して描き出しました。本展覧会ではそうした清親ならではの「光線画」の他に、美人画、物語絵、肉筆画など、浮世絵界が衰亡していくなかで最後のきらめきを放った浮世絵師小林清親の多彩な画業を、当館所蔵作品を中心としてご紹介いたします。

馬頭町広重美術館友の会「ユース 第8号」

平成16年8月12日発行 編集発行／馬頭町広重美術館友の会
〒24-0061 栃木県那須郡馬頭町馬頭1-16-9
TEL 024-7-211100 FAX 024-7-217177
http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/